

令和7年度 学校評価書

幼稚園名： 焼津市立大富幼稚園

幼稚園においては学校教育法及び学校教育法施行規則により学校運営の状況について評価を行い、その結果を公表することが義務づけられています。つきましては、本年度実施した保護者アンケート及び教諭自己評価をもとに作成した学校評価書を公表します。

<評価方法>

- ・下記項目による保護者アンケート及び教諭自己評価を実施し、回答を点数化したのち、その平均点により総合評価を判定しました。
- ※点数は左記のとおり<A…そう思う(4点)/B…どちらかといえばそう思う(3点)/C…どちらかといえばそう思わない(2点)/D…そう思わない(1点)>
- ・項目1～20は保護者及び教諭が、21～45は教諭のみが回答しました。

No.	項目	平均点
保護者・教諭 同一項目	1 幼稚園に通うことを楽しみにしている。	3.7 /4
	2 安心して自分の思いを出し、元気に遊んでいる。	
	3 友達と一緒に遊び、友達と共に過ごすことを楽しんでいる。	
	4 遊びや集団生活に必要な『きまり』があることを知り、守ろうとしている。	
	5 様々な物事に興味、関心を示し、知的好奇心、思考力、感動する心が育ってきている。	
	6 自ら、好きな遊びを見つけて遊んでいる。	
	7 思いやりの気持ちや我慢する気持ちが育ってきている。	
	8 家族や幼稚園職員に挨拶をしている。	
	9 体を動かすことが好きになり、体力がついてきている。	
	10 園目標「心豊かでたくましい子」に近づいてきている。	
保護者への対応	11 幼稚園は子どもの成長の状況を保護者に伝えている。	3.8 /4
	12 幼稚園は保護者が子どもの成長に気づくための機会(参観日等)を作っている。	
	13 幼稚園は子育ての悩みや相談に、丁寧に対応している。	
	14 幼稚園は保護者同士が親しく交流できる場となっている。	
安全対策	15 幼稚園は保育室、遊戯室、園庭等において園児が安全に過ごせるようにしている。	3.8 /4
	16 幼稚園は安全対策について園児及び保護者に知らせている。	
	17 幼稚園は地震や火災等の災害時の対応を明確にし、訓練等により園児が安全に避難できるようにしている。	
教諭項目	18 子ども一人一人の人權を尊重し、それぞれの長所を把握している。	3.6 /4
	19 教育要領に基づき子どもを保育し、適当な環境を与え、心身の発達を助長するよう努めている。	
	20 子どもの個々の発達段階に応じて、基本的な生活習慣を定着させるよう努めている。	
	21 保育の考え方について保護者と相違があった場合、その保護者の状況や考え方を受けとめたくらうて説明するよう努めている。	
	22 個々の家庭環境が違うことを考慮したうえで、その子どもに適切な保育を考え、行っている。	
	23 幼稚園の教育は子どもの生涯にわたる人格形成の基礎を培う大切な役割を担っていることを認識している。	
	24 子どもの状況に合わせ、人的・物的な工夫をもって環境の構成を行っている。	
	25 子どもが思い切り遊ぶことができるように、子どもと一緒に体を動かしている。	
	26 一人一人の子どもに目を配っていたかを振り返り、自身の保育の課題を見つけている。	
	27 子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう、子どもとの信頼関係を築く努力をしている。	
	28 時節に合った掲示物やコーナーによる室内環境作りに努めている。	
	29 子どもが快適に過ごせるよう保育室内を清潔に保っている。	
30 子どもが自発的に保育室内の環境を整える(遊び用具や掃除用具の片付け等)ことを促す工夫をしている。		
31 時間や提出物の期限を守っている。		
32 明日の保育に向け環境、教材等の用意をしている。		
援助に計画、環境	33 幼稚園教育要領及び自園教育課程を基に、実態に合わせた指導計画を作成している。	3.5 /4
	34 子ども一人一人の実態(発達の状況や興味の対象等)を把握したうえで指導計画、週案を作成している。	
	35 子どもの意欲を誘うよう工夫した環境構成がされた週案を作成している。	
	36 支援を要する子どもに対し、その子どもに適切な環境を準備し、具体的な対応をしている。	
	37 補助教諭がいる場合、両者の役割や子どもへの援助の方法等をよく話し合い、計画を立てて保育を進めている。	
	38 指導計画、週案と実際の子どもの状況、興味、関心が合っているか、という観点で自身の保育を評価している。	
	39 『園の教育理念、方針、目標』『自身の指導計画・週案の内容やねらい』を保護者が理解できるように説明することができる。	
	40 日々の保育が適切であったか判断し、適切でなかったと思われる点については、改善に向けた保育を計画し、実践している。	
	41 園長及び副園長・主任教諭は自身の立場を自覚し、他の職員の手本となるよう努めている。	
	42 園長及び副園長・主任教諭は園の運営についてお互いによく協力し、行っている。	

総合平均点数	総合評価(評価項目の達成及び取組状況)
4~3.1	A…十分達成されている
3~2.1	B…達成されている
2~1.1	C…取り組まれているが、成果が十分でない
1~0	D…取組が不十分である

総合評価	総合平均点数
A	3.7 /4

<本年度の幼稚園運営の振り返り>

・総合評価を受けての所感

保護者の皆様からは「入園前は人と関わることに慣れておらず心配しかなかったが、満遍なく友達と仲良くなれて親子共に優しさに触れて過ごすことができた。」「先生たちが親身になり接してくれた。」「先生や友達が色々工夫してくれ、苦手なことやできないことにも挑戦することができた。」「毎日登園を喜び、親子共に穏やかに伸び伸びと過ごせた。」などの言葉をいただきました。少人数ではありますが、恵まれた環境がメリットとなるよう努めました。保護者の皆様の協力を得ながら子供の成長を共に喜び合える機会を多くもてたことが、本園の評価につながったと思います。

・本年度努力した点、改善した点

保護者の就労、外国につながる御家庭の増加に伴い、PTAが主となり活躍していた夏祭りを、今年度は幼稚園主体で行って見ました。手伝いを必要とする夏祭りや運動会では、園が中介役となって中高生のボランティアを募り、保護者の皆様の負担軽減につながるよう努めました。

園児数減少に伴い、組み立てプールのサイズをワンサイズ小さくし、子供たちが水を怖がらずに遊べるようにしました。水に慣れていく様子に合わせて水量を増やしていましたが、昨年度と比較し水道使用量が削減され、エコにもつながっています。

・苦心した点、反省すべき点

少人数のクラス運営では、個別対応と共に異年齢保育を楽しめるような環境作りに努めるよう心掛けました。職員間の連携について改めて大切さを感じました。

PTA活動の負担軽減策として、毎月行っていた役員定例会を見直し保護者同士の連絡のみにしましたが、保護者同士が親しく交流できる場として「招集の機会もあるとよかった。」といった声も上がりました。今後は、負担軽減とコミュニケーション作りとのバランスがとれるよう、保護者の皆様と一緒に活動時間や内容について検討していきたいです。

<来年度の幼稚園運営について（方針、重点内容、改善策等）>

隣接する小学校や地域の方との交流、自主運行バスを利用した他園との交流は、子供たちの遊びや生活経験の向上につながりました。来年度も、少人数を生かした活動として、園を超えた交流活動を積極的に取り入れていきたいと思っております。